



おおだいら あつし
【奨励賞】 大平 敦

天国の父さんへ

元気ですか。

早いもので、父さんが亡くなって22年が経ちました。

中学生になった頃から、向き合って話をした記憶がなく、

素直に父さんと呼ぶのは小学校以来だと思います。

スーツを着て仕事に行く友達の親が羨ましく、

バスの運転手だった父さんが恥ずかしくて、

お酒ばかり飲み、家にいる父さんを疎ましく思っていました。

高校生の頃、父さんが運転をする路線バスに偶然、

友達と乗ったときがありました。

バスから降りるとき話しかけてきた父さんに、気付かぬふりをして降りました。

バスを降りてから、「知り合い？」と聞いてきた友達に「違うよ」と

答えたのを覚えています。

帰宅した父さんは、何も言いませんでしたが、嫌な思いをさせたと思います。

今でも思い出すと、胸の奥が痛くなります。

大人になって就職し、結婚して子供ができてから、

親の気持ちが分かるようになりました。

僕は人より、物事を理解するのに時間がかかるようです。

生きるって、家族を守るって大変なことですね。

今は単身赴任をして家族とは離れて暮しているけど、

幸せに暮らしています。高校生になる息子は、僕に似ず聡明で素直な子です。

一緒に酒を飲むことができませんでした。

いつか一緒に飲みたいと思っています。孫にも会わせたいので、

一緒にどうですか。まだまだ、先の話になりますが、

その時がくるまで待っていて下さい。

(宮城県／46歳／公務員)